



知ってとくとく キュウリ黄化えそ病

キュウリ黄化えそ病とは

病原ウイルス：メロン黄化えそウイルス(MYSV)

病徴：生長点付近の葉脈黄化、モザイク、退緑斑点、生育抑制など。果実にはモザイク症状が出ることもある。

感染：ミナミキイロアザミウマによって媒介され、キュウリの他にメロン、スイカ、ニガウリ、カボチャに自然感染します。ミナミキイロアザミウマが幼虫時にMYSV感染植物を吸汁することで体内に保毒し、終生伝搬能力を持つが、経卵伝染はしないとされています。種子伝染、土壌伝染はしません。



感染初期～中期 葉の退色症状（初期は他のウイルス病と区別が付きにくい）



感染後期 葉に退緑斑点が出る症状



果実のモザイク症状



防除対策

6～9月 夏場

ウリ科(キュウリ、カボチャ、ニガウリなど)の露地作物がMYSVIに感染します。圃場周辺の作付けに注意しましょう。



10月 定植時

残さから生えたウリ科植物の苗は高率にMYSVIに感染しています。残さは必ず圃場から片づけましょう！

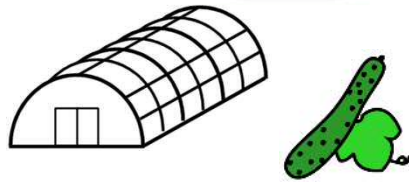
6月 栽培終了時

ハウス内にMYSVIに感染したキュウリがあると、ミナミキイロアザミウマも高率にMYSVを保毒しています。ハウスを閉め切って蒸し込み、アザミウマが逃げ出さないようにしましょう。



10月～11月 定植時～栽培期

露地から侵入したミナミキイロアザミウマがMYSVを保毒していると、キュウリに感染します。防虫ネットで覆う、粘着トラップをつけるなどアザミウマをハウスに入れないようにしましょう。



10月～翌年6月 栽培期

ハウス内でミナミキイロアザミウマがキュウリからキュウリへMYSVをうつします。ミナミキイロアザミウマの防除を心がけ、感染株はすぐに抜き取り圃場外へ持ち出し処分しましょう。薬剤感受性の低下したアザミウマが報告されています。農薬を散布するときは、系統の違う農薬をローテーション散布しましょう。



あいち病害虫情報

発生予察情報の提供 病害虫防除室では、毎月、月初めに**病害虫発生予報**、中旬に**最新情報**を出しています。防除の参考にしてください。E-mail配信ご希望の方は下記のアドレスまでご連絡ください。また、ウェブページ**あいち病害虫情報**もぜひご覧ください。

●お問い合わせについて

愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫研究室 病害虫防除室

所在地: 480-1193 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-1

電話 : 0561-62-0085(内線472) FAX : 0561-63-7820

E-mail: byogaichu@pref.aichi.lg.jp

<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/>